



編集後記

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2012-11-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 住友, 陽文 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10466/12603

編集後記

人間社会学研究集録の第7号をお届けします。

今回は人間科学専攻だけではなく言語文化学専攻の論文も掲載されました。喜ばしいことです。

今年度も多くの投稿がありました。編集サイドでは、投稿を受け付け、査読者を探し、基本的に内部審査1人と外部審査1人に査読を依頼し、コメントが返ってくればその内容を吟味してまとめ、査読結果として投稿者に開示し、再度書き直された投稿論文を受け付け、さらに査読者に審査してもらい、返ってきたコメントをまとめて再度投稿者に返す。こういう作業を繰り返して論文を掲載すべきものにしていきます。もちろんその過程で残念ながら掲載にいたらなかった論文もあります。今年度もそういう編集作業が大変でしたので、教務などのお仕事でお忙しい河野道房先生に編集作業の一部を肩代わりしていただきました。感謝いたします。

しかし小回りを要求される編集作業ですので、これはあまりうまいやり方ではありませんでした。来年度に向けて一案を講ずる必要があります。

ところで、投稿論文に査読意見がしばしばつくことがあります。また非常に重要だが、とても困難な課題を査読意見として付く場合もあります。これらに誠実に応えようとするのはとても大事です。論文を投稿することの意味は、他人の厳しい意見を、論文を発表する前に特権的に聴くことができるということに一つはあります。ただ、それらをすべてクリアすることがなかなかできないのも現実です。大事なことは、自分の論文が抱える問題点を自覚することです。ですから、編集サイドとしては査読意見すべてに完璧に応えることを要求しませんでした。自分の論文にはかくかくしかじかの問題点があり、それは今後の課題なのだということを自覚することが何より大事です。たくさん意見が付いたからといって気落ちすることはありません。

最後になりましたが、英文要旨のネイティブチェックのとりまとめをしていた齋藤憲先生をはじめ、査読や編集作業に関わったすべてのかたに、この場をお借りして感謝申し上げます。

編集委員を代表して住友陽文 (人間科学専攻)